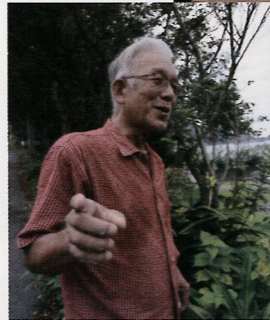




▶西子浦の神輿の再生も親子で手掛ける。解体する過程で、昔の職人の手仕事の技術に触れ、多くを学ぶ。

▼三代に渡り大切に使用している、職人の手にも相当する道具。大型の機械を使うことも増えたが、繊細な仕上げにはこれらの道具が活躍する。



◀「跡を継ぐといわれた時は、正直うれしかったよ」と二代目の源彌さん。現役バリバリの建具職人。有形民俗文化財の人形三番叟の保存活動にも尽力している。

◀オフの過ごし方はサーフィンやフットサルとスポーツが中心。サーフィンはもっぱら仕事前の早朝に吉佐美の舞磯へ。10月にはアラスロン大会にも出場する。



格子部分を互い違いに組み込んでいる西子浦の海蔵寺の戸。薄い木の皮や竹ひごによる網代編みというのは有名だが、堅い木で組んでいくのは至難の技。



町内の精肉店から発注された143×55cmの大きなまな板。まな板には最適といわれるイチョウの一枚板を使っている。何種類ものカンナを使い分け、丁寧に仕上げている。

渡邊 常義さん／建具職人

●子浦(屋号:豆腐屋)

この仕事でなかったら後悔していたと思う。

道具を見つめるひたむきな眼差し。カンナ掛けをする前に、刃の出具合を確かめる。素人目にはまったくわからない、紙一枚ほどの厚さの違いを調整する。「やっと削れるようになったかなというくらい。まだまだですよ」と語るのは、建具職人三代目の渡邊常義さん(32歳)。10年のキャリアをおくびにも出さない謙虚な物言いだ。

そんな控えめで真摯な姿勢は、仕事ぶりにも表れている。きれいに真っ平らに仕上がったまな板。納品の前に、まな板の端にさらにカンナを掛ける。料理する人が使いやすいようにと、まな板の中央に僅かな膨らみをもたせる。見た目には分からない職人ならではの技。西子浦の海蔵寺の修復にもこだわりが。かつて吉祥の寺にも使われていたという格子戸を二代目の父、源彌さんの記憶をたよりに、ふたりで再現。試行錯誤を繰り返して、格子を網代状(互い違い)に組んでいくという不可能とも思える格子戸を完成。手を抜くこともできるさり気ない部分に、職人技が施されている。

父の背中を見て育ち、ものごころがついた時から建具屋を継ぐものだと思っていたという常義さん。技術を学ぶため大学へ進み、卒業と同時に帰省し、父に師事する。しかしここまでの道のりは平坦ではない。15の時に母が脳溢血で倒れ、他界。将来についての考えが揺らぐ。医学の道へ進むことも考えたという。「楽な仕事じゃないから、やりたいことをやれ」と、一度は跡を継ぐことを反対したこともある父。それでも常義さんは家業を継ぐことを選んだ。「いくつかあったやりたいことのなかで、どれやらなかったら一番後悔するかなって考えたら、やっぱり建具屋だったんです」。

父を師と仰ぎ、地元で根をおろす、この男の生き様に飾り気のない輝きを感じる。

写真／岩間史朗

上屋敷デザイン
tel 印刷物のデザイン・編集
0558-62-2200
南伊豆町下小野430-1

通所介護・介護予防通所介護
デイサービス あったか
10名定員のまごころケア アットホームな民家型施設
☎62-6515 年中無休(正月除く)
南伊豆町下賀茂462-16

警備員募集!
短期もOK! 初めての方も大歓迎
交通費支給 女性スタッフもOK
研修制度あり 各種資格取得支援制度あり
勤務日・時間など、お気軽にご相談を!
伊豆トラスト警備保障
南伊豆町青野310-2 ☎0558-62-5525

地元写真家による撮影
スタジオ蔵 人生の節目に
七五三、入学式、卒業式、ポートレート等
出張撮影承ります。
090-9664-8938 岩間史朗
0558-63-0745 南伊豆町下小野111

1本の木から承ります。
庭の仕事 相談・見積り無料!
◆植木の剪定 ◆各種小工
◆庭の手入れ ◆雑用・手伝い
◆伐採・草刈・芝刈 ◆塗装も致します
◆造園施工・管理
南伊豆大瀬 電話0558-65-0040
庭の仕事野田 携帯090-7853-7698

下賀茂バス停前
ばんかふえ だいまる
open:9:00~19:00 火曜定休
南伊豆町下賀茂290-9 ☎62-0070

南伊豆のちいさな宿
GUEST HOUSE KODO-KODO
0558-62-1339
http://kodokodo.jp

広告、募集中
詳細は下記までお問合せを。
info@kamiyashiki.com
080-2161-1940
ミナミイズム